

評議会議事録 昭和四十年一月二十九日

華日辞典編纂出版の件

中国より日中友好協会を通じて本学に寄贈され、本学で編纂中の華日辞典は図書印刷出版株式会社の見積によると印刷費一、五一一万円とのことであるが、之に対する援助として某民間団体より五〇〇万円の寄付申出のある旨、本間前学長より連絡あり。之に関連し、華日辞典の印刷、出版について討議されたが、具体的な資料に乏しいため、結論に至らず、早急に事業計画書の作成、資料の提出をまって出版について審議検討することとし、寄付金は受入れることに意見の一致をみた。

評議会議事録 昭和四十年二月六日

華日辞典出版の件

本間喜一教授より、華日辞典編纂の経緯、出版に対する資金面の後援者並びに発売引受書店等につき説明あり、更に出版する場合の資金調達についても試案の説明あり、討議の結果左の通り決定す。

華日辞典は出版する。但し更に精密な計画の下に慎重に事を運び、大学の負担額は八〇〇万円を限度とする。

備考

華日辞典出版概要

頁数 二〇〇〇頁〜二二〇〇頁（日本語索引）
印刷費概算 一、五一一万〜一、六六〇万円

（索引をつける場合）

頒布価格 三五〇〇円（予定）
出版社 愛知大学華日辞典編纂処

発行所

発売元 大安書店

発行部数 一〇、〇〇〇冊

第一回印刷に要する費用五〇〇万円は日通社長の厚意による前渡金（二〇〇〇部購入の前渡金）をあててる。第二回印刷の五〇〇万円は購入予約金で賄う。第三回印刷の五〇〇万円と校正費用、日本語索引二〇〇頁増、其の他の雑費を含め五〇〇万円乃至八〇〇万円は予約金で不足の場合、大学で一時的立替え、三、四年の中に頒布代金で償還する。但し最悪の場合八〇〇万円を限度として大学が負担する。以上

評議会議事録 昭和四十年四月三日

華日辞典の件（報告）

鈴木擇郎委員より華日辞典の出版に関し先回評議会で報告した協力者（日通社長）と
その後の交渉経緯と又、教養部佐々木講師の紹介で国際親善クラブ（中国との文化交流
を目的とした団体）の協力者が得られる様交渉中の旨報告あり

開学二十周年記念事業について

日時Ⅱ九月二十一日午後三時

場所Ⅱ豊橋校舎大会議室

出席者

大学側 脇坂学長他

同窓会側Ⅱ伊藤会長、大野副会長他

◇法人の目的及び事業について

(前略)

脇坂学長Ⅱ大学も徐々に研究施設の整備を進めているので法人としても積極的な御協力を願います。今日の評議会で決定した開学20周年記念事業を披露する。①は華日辞典の出版は41年5月の予定である。②は図書館の設立(六〇〇坪、二階建)である。財団法人の事業計画にある奨学金制度も充分活用して行きたいと思う。

(後略)

[注] 愛大同窓会会報第十二号(昭和四十年十一月一日) 所載による本学評議会(九月二二日)の決定。